

海外臨床薬学研修 報告書

研修期間：令和 5 年 8 月 6 日～令和 5 年 8 月 14 日

所 属：名城大学薬学部薬学科

学 年：6 年

学籍番号：170973414

氏 名：大河内瑞稀

1. 参加目的

米国の薬剤師の現場での活躍、また薬学教育のシステムについて興味があり、参加を決意した。

2. 研修内容

【研修テーマ】米国における薬学教育及び薬剤師の職能について

【研修日程】

月 日	研修内容
8 月 7 日	Campus Tour / Orientation Lecture — Pharmacy Education in US — Postgraduate Education and Board Certifications in US — US Healthcare Model — Pharmaceutical Sciences Research Institute
8 月 8 日	Lecture — Overview of Community Pharmacy Site Visit — Community Pharmacies (Rock Creek Pharmacy, FMS Pharmacy) — Home Infusion (Solutions Infusion)
8 月 9 日	Interaction with Pharmacy Students — Breakfast and Lunch and Sightseeing Site Visit in Birmingham — The Students Perspective
8 月 10 日	Site Visit — Hospital (Encompass Health) Lecture — Overview of Hospital Pharmacy Practice — Sterile Compounding Exercise Tour of the Simulation Floor & High Fidelity Simulation Experience
8 月 11 日	Lecture — Overview of Ambulatory Care Practice — Overview of Ambulatory Care: The VA Perspective Site Visit

	— Ambulatory Care (Brookwood Baptist Primary Care) Closing Ceremony
8 月 12 日	U.S. Space and Rocket Center Visit

【研修内容の詳細】

アラバマ州バーミンハムにあるサンフォード大学の広大なキャンパスの薬学部で講義を受けた。講義の内容は、米国の薬学教育システムや卒後教育、保険制度などから薬局や病院での薬剤師の働きぶりに至るまで、薬剤師を取り巻く様々な事柄で、どれも印象深いものであった。

教育システムについて、薬学部入学以前に専門教育を 2 年程受けていることが条件であったり、最終学年（4 年次）の実務実習（APPE: Advanced Pharmacy Practice Experiences）では 1 年間で 8 ～9 か所の医療施設で実習を行ったりなど、米国と日本とを比較すると、大きく異なる点が多く見受けられた。また、退役軍人に対しての病院である VA Hospital や、保険に入っていない患者への対応など、米国独自の制度についても学んだ。

また、キャンパス内にあるシュミレーションセンターで行われている授業についても説明を受け、実際に患者ロボットを使った体験をした。シチュエーションに応じて様々な患者ロボットが用意されており、その数に圧倒された。学生が実臨床の場で怖気づかないように事前に練習を行い、実務実習に備える体制が整っており、患者ロボットを用いたケーススタディーも行われていた。

施設視察では、地域の薬局から病院に至るまで幅広い領域の医療機関を訪れ、そこで働く薬剤師の先生方や実習を行う薬学生から現場の状況について説明を受けた。

米国では、患者に対して注射を打つことができたり、特定の条件であれば処方権をもつ薬剤師がいたり、こちらにも日本との大きな違いが見受けられた。またテクニシャンと呼ばれる職業が調剤助手として活躍しており、ピッキングや無菌調製などの作業を薬剤師が行わずとも、薬が用意できるシステムが備わっていた。薬剤師は、監査や相互作用、副作用確認などに集中することができ、患者の治療に注力できる環境が整っていると感じた。

また、現地の薬学生との交流があり、お互いの趣味や学業、ライフスタイルなど多くの話をし、とても有意義で楽しい 1 日を過ごした。

3. 感想

緑の中にある薬学部のキャンパスでは、ほとんどの学生が学内で 1 日 6 時間ほどの勉強に励んでいることを聞き、勉強時間の多さに驚愕すると同時に、学びに対して受け身になっていた自分が恥ずかしくなった。実習施設では、学生もワクチン接種を行っており、“最初は痛がる患者さんが多かったんだけど、何回も経験すると注射を打つのが上手くなっていった楽しいんだよね”と学生が語っていたのが印象的だった。

今回の研修で、実際に幅広い業務を行う薬剤師の働きぶりを実際に見たことで、日本の薬剤師の地位向上の可能性を垣間見たような気がする。今回得た経験・考え方・価値観を今後の学びに活かし、薬剤師として働くようになってからも大切に、積極性をもって励んでいきたい。

最後に、私たちを受け入れてくださったサンフォード大学薬学部のクラウチ学部長ならびにトーマス教授、引率いただいた亀井教授をはじめ、今回のサンフォード大学海外臨床研修の実施にあたり尽力してくださった全ての方々に深く感謝申し上げます。